

## 御 挨拶

2004（平成16）年4月1日付けで、公立大学協会図書館協議会の会長館をお引き受けして、この1年間、加盟館のみなさまのご協力によって、総会をはじめとして各種の活動や行事を、何とか無事に運営することができましたことに、まずは心よりお礼申し上げます。

大学改革の進展や法人化の波は、確実に公立の大学にも押し寄せてきて、先年、国立大学が法人化されたことにつづいて、現在は公立大学がその渦中に投げ込まれているといった状況にあることは周知のとおりでしょう。本協議会の加盟館も、県や市という地方公共団体設立の大学の附属機関や部署であるものと、すでに法人化された、またはそれが予定された大学の機関とが混在し、上部団体の公大協もさることながら、性格や利害を共有し、一緒に議論することがますます困難になってきております。まさに本会の存在意義がいずれ根本的に問い直される、そんな時期が近い将来に訪れてくることは明白だと思われま

す。ILL文献複写等料金相殺サービス、電子ジャーナル、図書館司書の定員明確化、著作権問題等々がここ数年間に論議されてきましたが、本会が全館一致的な方針を出すことができずに、大勢として認めてゆく、先駆け的な図書館がそれを先導してゆくという現状にあることも認めざるを得ないでしょう。まさにさまざまに性格や母体の異なる公立大学図書館の全国的協議機関が本会なのですが、そのなかで規模も小さい芸術系の単科大学たる本学図書館が会長職をつとめることになったのも、過渡期の図書館行政のあり方を象徴的に示しているものと言うべきでしょうか。その意味で、何とか無事に運営できたことを喜んでいと述べましたが、あるいはこれは多難な時代の幕開けなのかもしれません。

今後とも包括的、抜本的な問題をとともに論議し、皆様がたと一緒に進んでゆけることを祈りつつ、さらなるご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2005（平成17）年3月

公立大学協会図書館協議会 会長  
愛知県立芸術大学 附属図書館  
館長 二瓶 浩明